

平成23年5月下旬からの低日照および多雨による野菜への影響と対策

【影響】

1. 早掘りカンショ
(1) 塊根の肥大遅れ（収量減少）

2. ハウスメロン
(1) 生育不良による雌花の充実不良（着果不良、肥大不良）
(2) ネット形成不良による外観品質の低下
(3) 糖度不足による内容品質低下

3. ハウスナス科果菜類（ナス、ピーマン、シシトウ）
(1) 着果不良、肥大不良による収量減少

4. ショウガ
(1) 露地ショウガ
①雨量の増加による肥料成分の早期流亡
②塊茎の肥大遅れと白星病の早期発生
(2) ハウスショウガでは塊茎の肥大遅れ（収量減少）

5. 露地オクラ、露地シシトウ
(1) 着果不良、肥大不良による収量減少

6. 雨除け米なす、雨除けピーマン
(1) 着果不良、肥大不良による収量減少

【対策】

<露地栽培>

- 1) 畦面にマルチングしていない場合には、ワラやケイントップを畦面に早めに敷き、土壌や肥料成分の流亡を抑制する。肥料成分が流亡している場合には、早めに追肥を施す。
- 2) 少しの晴れ間でもできれば、殺菌剤による防除を行う。
- 3) 軟腐病菌などが侵入しやすくなるため、整枝や摘葉は晴れてから行う。
- 4) 収穫は適期に行い、取り遅れに気をつける。

<施設栽培>

- 1) 連続した曇雨天後の晴天・高温時には、果実表面の焼け果が多発する可能性があることから、換気、灌水は遅れないように行う。萎れが激しい場合には、設備のあるハウスでは遮光も行う。収穫時に果実表面が熱くなって、光沢のあるナス等は、後日に焼け症状がでる場合があるため、選果に十分注意する。
- 2) 肥料成分の根からの吸収が劣る場合には、葉面散布も試みる。この場合濃度が高くないように注意する。
- 3) 曇天でも必要なら殺菌剤による防除を行い、循環扇等で乾かす。
- 4) 軟腐病菌などが侵入しやすくなるため、整枝や摘葉は晴れてから行う。
- 5) 収穫は適期に行い、取り遅れに気をつける。

平成23年5月下旬からの低日照および多雨による果樹への影響と対策

【影響】

1. 露地カンキツ（温州ミカン、ユズ、ブンタン、ヒュウガナツ、ポンカン）
 - （1）着果不良（生理落果）、肥大不良による収量品質低下
 - （2）黒点病等の病害の多発による品質低下

2. 施設カンキツ（温州ミカン）
 - （1）浮き皮、着色不良による品質低下
 - （2）糖度不足等による内容品質低下

3. ナシ
 - （1）肥大不良による収量減少
 - （2）黒星病、炭そ病等の病害の多発による収量、品質低下

4. スモモ
 - （1）糖度不足による内容品質低下
 - （2）灰星病等の多発による収量品質の低下

【対策】

<露地栽培>

- （1）明きよの設置などによる排水対策の徹底。肥料成分が流亡している場合には、早めに追肥を施す。または、葉面散布を実施する。
- （2）少しの晴れ間でもできれば、殺菌剤による防除を行う。
- （3）収穫は適期に行い、取り遅れに気をつける。（スモモ）

<施設栽培>

- （1）連続した曇雨天後の晴天・高温時には、果実表面の焼け果、また、薬剤散布等による薬害が生じやすいので留意する。
- （2）曇天でも必要なら殺菌剤による防除を行い、循環扇等で乾かす。
- （3）浮き皮、内容品質低下対策として、適正な水分管理、換気扇等によるハウス内湿度の低下に努める。
- （4）収穫は適期に行い、取り遅れに気をつける。